

本邦における先天性CMV感染

国立仙台病院ウイルスセンター

沼崎 義夫

3,698例の妊婦から、妊娠初期、中期、満期の3回血清を採取し、CF、EA（初期抗原）、IgM-MA（膜抗原）抗体を検索することによって、血清学的に初感染と再活性化を鑑別診断した。

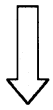
3,698例中3,549（96%）は妊娠初期血清からCF陽性であり、初感染は抗体陰性の149例中4例（2.7%）に起ったが、これら4例の母親から生れた児は正常であり、ウイルス分離も陰性で子宮内感染は否定された。

妊娠初期からCF抗体陽性であった母親から生れた新生児1,861例中9例（0.5%）からCMVが分離されたが、9例の児は全く正常であった。

3,698例の臍帯血についてIgM-MA抗体を検索したが、前述の9例を含めて全て陰性であった。

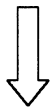
以上の結果、本邦においては初感染に伴う先天性CMV感染症は希であるが、再活性化による不顕性子宮内感染は抗体陽性妊婦の0.5%に起っていることが判明した。

従って、年間の出産を150万とすると7,500例の先天性、不顕性CMV感染が毎年発生しているものと推定される。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本邦における先天性 CMV 感染

国立仙台病院ウイルスセンター

沼崎義夫

3,698 例の妊婦から、妊娠初期、中期、満期の 3 回血清を採取し、CF、EA(初期抗原)、IgM-MA(膜抗原)抗体を検索することによって、血清学的に初感染と再活性化を鑑別診断した。3,698 例中 3,549(96%)は妊娠初期血清から CF 陽性であり、初感染は抗体陰性の 149 例中 4 例(2.7%)に起ったが、これら 4 例の母親から生れた児は正常であり、ウイルス分離も陰性で子宮内感染は否定された。

妊娠初期かう CF 抗体陽性であった母親から生れた新生児 1,861 例中 9 例(0.5%)から CMV が分離されたが、9 例の児は全く正常であった。

3,698 例の臍帯血について IgM-MA 抗体を検索したが、前述の 9 例を含めて全て陰性であった。以上の結果、本邦においては初感染に伴う先天性 CMV 感染症は希であるが、再活性化による不顕性子宮内感染は抗体陽性妊婦の 0.5%に起っていることが判明した。

従って、年間の出産を 150 万とすると 7,500 例の先天性、不顕性 CMV 感染が毎年発生しているものと推定される。